

## 高校3年生の体育授業の選択種目として 「キンボール」を取り入れて

保健体育科 松本英樹

本校3年生の10月～12月は、高校生活最後の授業期間であり、体育においては、“小・中・高校までの12年間の総まとめ”として、生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現するために“生徒が主体的に授業をつくる〈選択種目〉の取り組み”をおこなっている。それまでの高校の体育授業で学んでいない種目の中から、自分たちが興味・関心を抱いた種目について調べ、賛同者を募り、企画書を作成する。体育科の教員会議において、“学校体育の枠組みの中で、実現可能性や授業として価値がある”と認められた企画（種目）については、担当教員が付いて開講することができる。本年度は、「ソフトボール」「バドミントン」「格闘技」「アウトドア」「卓球」「ダブルダッチ」、そして「キンボール」が採用された。

キンボールの企画者は3名で、賛同者は17名、最終的に授業は36名（男子22名・女子14名）が参加することになった。企画書には、①キンボールの概要、②この種目をおこなう利点、③必要な施設と用具（日本キンボールスポーツ連盟からレンタルする方法など）、④指導体制、⑤授業目的、⑥授業内容、⑦賛同者の氏名、が記されていた。④については、偶然にも筆者がキンボール連盟の研修を受けた経験があることから担当することになった。

キンボールの授業は、日本キンボールスポーツ連盟から用具（ボール3球と電動空気入れ）をお借りして、11月11日～12月7日の期間で、全10回おこなうことができた。企画生徒3名と担当教員（筆者）が相談して、安全対策を考えて1～2回は教員が主導、3～10回は生徒が運営する形にした。また、担当教員からは、参加生徒全員が主体的に本授業に関わることができるように、各回の授業で3分程度の時間を取り、「キンボールに関する情報（豆知識）を調べてきて、全体に向けて発表する」という提案をした。さらに、全授業後には、（1）キンボールというスポーツの“良い”と“良くない”と感じた部分を挙げて、このスポーツが普及するための策（アイデア）を考える、（2）キンボールの授業を受けた感想、を課題として求めた。

### 【全10回の授業内容】

①	授業オリエンテーション(ボールの扱い方)	⑥	チーム編成に向けた練習試合
②	リードアップゲーム紹介とメンバー交流	⑦	チーム確定と練習試合+特別ルールの確認
③	リードアップゲーム考案とメンバー交流	⑧	リーグ戦(7チーム)
④	競技ルールの説明とゲーム体験	⑨	リーグ戦(7チーム)
⑤	競技ルールの説明と特別ルールの設定	⑩	リーグ戦(7チームで順位を決定)



生徒が主体的に授業を運営＋豆知識の紹介



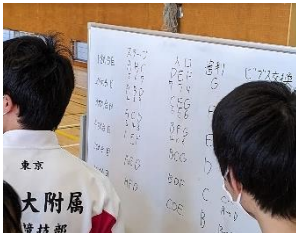
本校に適した特別ルールの確認に時間を使う



バスケットコート2面に分かれ7チームでのリーグ戦



スピードUPと戦術の工夫で楽しさが増す



運営もみんなで協力



全10回で驚くほど白熱したゲームを展開、他校と交流戦もしてみたい！

生徒が提出した最終課題をまとめてみると〈別紙〉、キンボールという種目の特徴を捉えた意見が多く出されているが、「キンボールにエースは必要ない」「3チーム対戦なので敵チームとも褒め合える」「国籍（言葉）に関係なくプレーできる」「視力の低い人でもメガネを外して楽しめる」などユニークな意見もあった。学校体育において男女共修が原則となっていく中、体づくり運動で取り入れたり、各種目の導入等に活用することで、多様な個性が自然と混ざり合い、その後のスムーズな授業展開が期待できる。互いに遠慮することなく、みんなが全力でプレーできる点においても、キンボールには教材としての高い価値を感じることができた。

【授業後の課題】

	キンボールのよいところ	キンボールのよくないところ	普及のためのアイデア
1	平等 順にしか打てない、予想外の場所に飛ぶ	声の大きさが必要、衝突する、 周りが見えなくなりやすい	一定時間で強制的にメンバー入れ替え (頭を冷やす)
2	体力をあまり必要としない	準備が大変で空き時間に気軽にしようとは思わない	声以外の方法を考える(手を挙げるとか)
3	ボールが大きく協力を必要とする		
4	キンボールにエースは必要ない (みんな輝ける)	ボールの値段が高い、ボールサイズ大きい ため場所の確保が大変	安価なボールの開発と身近なスペースで 取り組める工夫
5	全員初心者で1からの取り組み感がいい 運動の得意・不得意があまり関係ない	性別や体格で差を感じた チーム作りに工夫が必要	<b>男女共修に相応しいスポーツ</b> ボールに購入にどれだけ理解が得られるか
6	チーム戦術により性別や体格にある差を 埋めることができる	スピード感や、どの部分にゲーム性がある のかを理解するまで楽しさがわからない	映像でゲーム性を理解する。魅力を知るに は回数が必要で学校体育で取り入れる
7	3チーム対戦が魅力的、プレーの距離感 が近く声をかけるので親しくなれた	判定が難しい場面があったり、声の小さい 人の判定は特に難しかった	地域のスポーツクラブなどで積極的に大会 を開催して広めていけばスポーツだと思 う
8	試合メンバーが少なく、一人ではボールを 支えられないので、チーム連携が高まる	参加チームが多いと3チームの大会ローテ ーションを組むの難しい。準備に時間がかかる	小・中・高校生が混ざり取り組むことができ れば老若男女で楽しめることが証明できる
9	特別な技術を習得しなくても、 周りをよく見ることができれば活躍できる	大きなキンボールを気軽に扱えるスペース が必要	学校体育館で気軽に経験できればよいが、 難しいので町の体育館でイベントを開催
10	団体競技でもボールに触れる機会が多く 楽しい。状況に応じルール変更ができる		フォーメーションや打ち方など、奥深い技術 や戦術の動画がない。公式サイト充実
11	他スポーツと比べても体力・戦術・身体 能力を必要とし、試合展開も早く面白い	実際に体験するまでのハードルが高い (気軽にボールに触れる機会がない)	オリンピック種目でも気軽にできないスポー ツはある。知名度を高めれば広がるだろう
12	ボディコンタクトが少なくみんな楽しめる。 声出しを必要とするので親しくなる	3チーム対戦で色を呼ばれない試合があり、 その時はすぐつまらなかった。	
13	4人全員が攻守に活躍できるのが魅力で、 老若男女みんな楽しんでスポーツ	ケガが少ないスポーツだと思いが、油断を してケガをしないように注意が必要	楽しいスポーツなので、一人でも多くの人に このスポーツの存在を知ってもらおうのが大切
14	得点が1/2くらい回数で入る。 ゲームの進むテンポがすごくいい	試合に最低12人必要なのは大変。失敗した チームを減点するカウントの方が審判は楽	
15	いろいろな人が楽しめる。シンプルな スポーツだけど戦術の幅がひろい	土台の人が戦術に関わるともつといい。 力の無い人は飛距離が予測できてしまう	ボールの種類をソフト～ハードなどテニスの 入門みたい段階を分けて作ってはどうか
16	個人プレーが自然にチームプレーとなり、 皆が楽しめる便利なスポーツだと思った	試合が白熱してくるとサーブゲームになる。 セルフジャッジは難しく厳格な審判が必要	リードアップや終盤は面白いが中だるみが あり、このボールで違うゲームはできないか
17	比較的平等に楽しめ、毎回4人関わったり、 声出しでチームに貢献できるのもいい	専用のボールが無いと経験できない (他のボールではこのスポーツはできない)	気軽に関わられるように地域の体育館などに おいてほしい
18	様々な人が活躍でき楽しくプレーできる。 多様な戦術を生み出す可能性を秘めている	ルールに曖昧なところが見られ、ずるい得点 の稼ぎ方がみられるので、厳格な判定が必要	もう少しカッコいいスポーツ名にしてはどう？ 技の難度で得点の入り方に幅をつける
19	男女の能力差が埋まる部分や、3チーム 対戦でフェアに戦えば接戦を楽しめる	ボールが思ったより大きくて重く、油断すると ケガする可能性がある	キンボールを学べる地域のイベントがほしい
20	「オムニキック」と色の名前を覚えれば、 男女・国籍など関係なくプレイできる	慣れないと腕や足を痛める。ゲームルール を確立できないとグレーな部分多くなる	種目名をもっとカッコよくする。小さい子が ケガしないよう小さいボールも作ってみる
21	ルール簡単だが戦術が必要で、チームの絆 も深まる。チームスポーツの醍醐味がある	得点表示をもっとわかりやすくして、現状を 理解しながら戦えるようにすべき	
22	男女で安全に楽しめるスポーツ。技術面の 工夫の幅も広い。敵とも褒め合える	ルールや遊び方の共通認識がないので、 白熱するまでに時間がかかった	メディアで取り上げられる機会があまり無い ので、イメージだけでも伝わるような工夫
23	仲間と声を掛け合いプレーする場面が多く、 チームワークに結果が大きく左右される	真横より上に打つ、ラインにふれるとイン、 などギリギリを求めるがジャッジが難しい	審判に頼らなくてもセルフジャッジで楽しめる ルール変更があればいい
24	運動の得意・不得意に関わらず、 攻守において誰でも参加できるスポーツ	審判の判定があやふやになってしまう	企業の社内研修で積極的に取り入れて もらうことはできないか
25	参加メンバー4人が均等にボールに触れて、 1人に任せることなくプレーできる	ボールを遠くに飛ばせる人がいるチームが やはり有利だと思う	打つ人はボールケアしにくいので、土台の 人でも活躍の場があるスポーツと宣伝する
26	1プレーずつ必ず全員がプレイするので、 偏ることなくみんな楽しめる	ボールの調達が難しく、どこでボールを借り ていいのかわかりにくい	非常にユニークなスポーツなので、ドラマで 取り上げられるなどのメディア展開に期待
27	2チームに点が入る。手でボール扱いが 苦手でも貢献できる。皆で共有できる	ボールが特殊すぎる。バランスボールなど で代用できるルールは考えられないか	最初のヒットにキックを入れてはどうか。 ダイナミックなゲーム展開も期待できる
28	運動が苦手でも走ればなんとかなる	点差がつくと逆転は難しい。1位になるまで かなりのターンが必要となる	レシーブに失敗したら再度サーブ権を与え るなど、逆転の機会を与えるルール
29	3チームで展開するユニークさ。 攻撃の多様性	3チームで点差があまりつかない。 手軽には遊べない	ボールを落としたチームは0、攻撃チーム は3、その他は1、などの得点制はどうか
30	老若男女が楽しめて、視力の悪い人が メガネを外しても楽しめる球技といえる	やはり同じ年齢・体格・身長等で、試合を した方が断然プレーしやすい	誰でも楽しめるスポーツだが、やはり弱者 に気を使いながらプレーする感覚はある
31	ボール自体にインパクトが大きく、見た目 でワクワクする。みんなで追いかけるの楽しい	試合の際に厳格なジャッジは難しい	気軽にキンボールに触れることができる 環境づくり。毎回ボールを膨らませるの大変

【授業後の感想】

試合に慣れてくると、各チーム作戦を立て始めて、ゲーム性が生まれたので、とても楽しめた。初めて知った競技だったけど、新鮮だし、授業に無かったらやる機会もなかったと思うので、選んで良かったと思う。チームのみんなは、とにかく声掛けが多かったので、常に明るい気持ちで取り組むことができた。また、2チームに得点が入るため、他チームの人とも喜び合えるのが、不思議な感じで面白いと思った。

キンボールの授業で、はじめて関わった人もいたけれど、最初にするリードアップゲームなどを通して自然に知り合えて楽しかった。チームも、「ナイス」などの声かけがとても気持ちの良いチームだったと思う。私は良いチームの中では声も出せるが、自分で良い雰囲気を作れるようにもなりたいたと思った。

最初は、どうやって他のチームと差をつけていくのか、具体的な戦術が全く想像できなかったが、試合で他のチームのプレーをみて、本当に巧妙な戦術を用いていて、とても驚いた。例えば、サーブを打つとみせかけて対角上の人が逆向きに打ったり、ボールを運びつつ走ってみんなが追いついてくるのを待ってから、ガラガラに空いた（進行方向と逆向きの）空間にすかさずボールを打ってみたり、ライン際や人が重なっているところなど動きにくそうな場所を見極めて打ったり、といった多様な戦術には脱帽した。

授業回数が進み後半になるにつれて、各チーム意表を突くような攻撃が多くなった。コートに近いところでセットして、その外側の守りが手薄な一番端に打ったり、コールした人と違う人が打ったり、いきなり走り出して全然違う方向に打ったり、等だ。私もやろうとしたが、機敏に動くのがけっこう難しかった。守りでも、スライディングして足でギリギリしのぐなど、驚くような動きが出てとても面白かった。

発案者 A 君に誘われた時には、どんなスポーツか想像もつかなくて、高校最後の体育の授業がこれでいいのかと不安もあったが、斬新なルール、チームプレーが大事なゲーム性など、楽しめる要素が非常に多く、それでいて競技としても燃える、素晴らしいスポーツだと感じた。ぜひ将来どこかでまたプレーしたい。